

四 日ソ漁業問題

1 日ソ漁業条約締結関係

104 昭和2年3月18日 出淵外務次官 在本邦ソ連邦代理大使 会談

漁業問題等に関する日本側の希望について

漁業問題及「ベッサラビア」問題ニ関シ露国代

理大使ト会談ノ件

昭和二年三月十八日露国代理大使ヲ招キ出淵次官ヨリ漁業協約談判停頓ノ状況ヲ内話シタル上本問題ハ漁業関係者ニ著シキ刺戟ヲ与ヘ現ニ両三日前約三十名ノ代表者外務省ニ来リ盛ニ不平ヲ述ヘ中ニハ激昂ノ色ヲ示シタルモノモ尠カラス又新聞紙上ニ於テモ昨今論議ノ種トナリ居リ此形勢ニテ進ムニ於テハ自然一般国民ノ対露感想ニモ面白カラサル影響ヲ及ホスニ至ルヘキカト私カニ懸念シツツアリ談判ノ停頓ニハ固ヨリ種々ナル原因モアル可ク是迄露国側ノ主張セラレタル事柄中ニハ露国ノ現制度ニ顧ミ已ムヲ得サルニ出テタルモノモアル可キモ兎ニ角西比利亜沿海ニ於

ケル漁業権ナルモノハ一般日本人ニ於テ日露戦争ノ結果得タルモノナリト信シ右権利ニ制限ヲ加ヘラルコトハ其事情ノ如何ニ拘ハラズ好マサル次第ナルコト貴代理大使ノ承知セラルル通ナリ從テ毎々申上タル通り此際貴国政府ニ於テ大局ニ顧ミ可成速ニ日本側最後ノ主張ヲ容レラレムコトヲ希望スト語り尚ホ協約交渉停頓ノ現状ニ顧ミ差当リ解決セサルヘカラサル問題(ソハ外ナラス蟹及鯨ノ問題ナリ)ニ付特ニ考慮ヲ望ム

蟹及鯨ハ漁期切迫シ居リ四月上旬ニハ漁業家ニ於テ日本ヲ出発スル必要アル処夫レ迄ニ漁業協約ヲ決定スルコト到底不可能ナルヘキニ付此際不取敢蟹及鯨ニ付テハ從來ノ振合ニテ引続キ漁獲ニ従事シ得ルコトニ取計ヲ希望ス実ハ右ニ関シテハ過日我漁業家ニ於テ決議ヲ為シ若シ露国官憲ニ於テ從來ノ振合ニテ漁獲スルコトヲ許ササル場合ニハ日本側ニ於テ競売ニ参加セサルコトヲ為スヘシト決心シ居ルカ如

四 日ソ漁業問題

キ有様ニテ事態頗ル妙ナラサルニ付何トカ貴代理大使ノ配慮ニ依リ貴国官憲ニ於テ從來通ノ振合ニテ漁獲ヲ許サル様希望スル旨ヲ述ヘタルニ代理大使ハ漁業協約談判停頓ヲ見ルニ至リタルハ自分ノ頗ル遺憾トスル所ナルモ実ハ内密ノ事情ヲ申上レハ沿海州方面ニ於ケル露国人ノ反対熱強キ為莫斯科政府ニ於テモ之ヲ庄迫スルコト困難ナル為自然交渉成立遅延シ居ル次第ナリ其点特ニ日本政府ノ了解ヲ請ヒ度シ漁期切迫シ居ル蟹及鯨ニ関シ從來ノ振合ニテ漁獲ヲ許スヘシトノ御希望ハ同一ノ漁区ヲ同一ノ価格ニテ使用セシムルヘシトノ御希望ナリヤト反問セルニ付次官ヨリ正ニ其通りナリト答ヘタル処代理大使ハ御話ノ次第ハ御尤ト考ヘラルルニ付直ニ莫斯科ニ電報スヘシト答ヘ尚次官ヨリ鯨ノ漁区ハ僅ニ十二蟹ノ漁区ハ九ニ過キササルニ付此二十一ノ漁区ニ対シ從來通ノ取計ヲ為スコト必スシモ貴国官憲ニ於テ困難トスル次第ニモ非サルヘキニ付是非共日本側希望ノ貫徹セラルル様配慮アリ度キ旨ヲ述ヘタルニ代理大使ハ右漁区ノ数ヲ書留メ持帰リタリ

漁業ニ関スル前記会談終リタル後代理大使ヨリ去ル十日「ベッサラビア」問題ニ関シ次官ノ述ヘラレタルコトハ早

速本国政府ニ電報シ置キタル処両三日「カラハン」ヨリ日本政府ニ於テ此際「ベッサラビア」条約ヲ批准セサルヘシト言明セラルルコトノ困難ナル次第ハ露国政府ニ於テモ充分了解シ居ル次第ナルカ日本政府ニ於テ露国ニ対シ親善ノ感情ヲ表ハス為「日本政府ハ『ベッサラビア』問題ヲ以テ日本ノ利害関係ナキ純然タル欧州問題ト看做ス」トノ意味合ノ声明丈ニテモ不取敢発表セラルルニ於テハ露国民ニ於テ深く感謝スヘキニ付其旨非公式ニ日本当局ニ懇談スヘシトノ訓令ニ接シタルニ付外務省ニ於テ右様ノ声明ヲ発セラルルコトヲ得ヘキヤト尋ネタリ右ニ対シ次官ヨリ「ベッサラビア」問題ニ対スル日本政府ノ立場ハ去ル十日御話シ置キタル通ニテ此際「ベッサラビア」条約ヲ批准スルトモ將又批准セストモ言明スルコトヲ得ス只今御話ノ日本ハ本問題ニ付利害関係ヲ有セストノ声明ノ如キモ此機会ニ於テ之ヲ行フカ如キコトハ諸般ノ関係上困難トスル所ナリトノ趣旨ヲ説明シタル処代理大使ハ兎ニ角右露国側希望ノ次第ハ外務大臣ニ伝ヘラレ度キ旨ヲ述ヘタリ

(代理大使ハ昨夜独逸大使館ニ於テ食事ヲナシタル際「ゾルフ」大使ヨリ日本政府ヲシテ「ベッサラビア」条約

ヲ批准セストノ言明ヲ為サシメムトスルカ如キコトハ到底不可能ナルヘシトノ話合アリタリトノコトヲ洩セリ）尚代理大使ハ右ニ関連シ近來伊太利ノ近東政策ハ「バルカン」半島ニ於ケル禍乱ヲ繰返スニ至ル危険アルコトヲ述ヘ伊太利カ先般「アルバニア」トノ間ニ秘密協定ヲナシ更ニ進テ羅馬尼亞トノ間ニ政治条約ヲ結ヒ今回ハ更ニ好意ヲ寄スル為「ベッサラビア」条約ヲ批准スルニ至リタル次第ナルカ羅馬尼亞ト洪牙利ハ余程密接ナル關係ニ立チ居ルニ付將來伊太利ハ「アルバニア」「ハンガリー」「ルーマニア」「 그리스」ト良好親善ナル關係ヲ結ヒ之ニ英國ノ勢力モ加ハルヘク而シテ右ノ「グループ」ニ對抗スル為「ユーゴースラヴィア」「ブルガリア」土耳其ノ三国協定成立シ露西亜ハ自然之ト力ヲ合スルコトトナル可ク彼ノ「ユーゴースラヴィア」「チェッコスロヴァキア」羅馬尼亞トノ間ニ成立チタル小協約國ノ關係ハ最早破レタリト認ムルコトヲ得ヘシ

尚最近ニ至リ本国政府ヨリ入手シタル報道ニ依レハ露西亜ト仏蘭西トノ債務協定談判著シク進行シ居リ仏露ノ關係ハ必ス改善ヲ見ルニ至ル可ク又昨年露西亜ト波斯トノ間ニ非
 「ベセドフスキー」ノ時代ニ於テモ重要事件ノ起ル度毎ニ「ゾルフ」大使ニ於テ指導ヲ為シ居ルコト極メテ明瞭ナル事實ニシテ現ニ本日ノ會談ニ於テモ「ベセドフスキー」ハ独逸大使ヲ父ノ如ク考ヘ居ル旨ヲ洩シタル位ナリ
 將來露國大使館ト接触スル場合ニハ同時ニ露獨兩大使館ノ密接ナル關係ヲ考慮ニ入ルルコト得策ナリト思考ス念ノ為付記ス

105 昭和2年4月22日 出淵外務次官 在本邦ソ連邦大使館參事官 會談

漁業問題その他に関する會談

漁業問題等ニ関シ露國大使館參事官來訪ノ件
 昭和二年四月二十二日午前露國大使館參事官「ベセドフスキー」出淵次官ヲ來訪漁業問題等ニ関シ大要左ノ通り會談セリ

(一) 漁業問題

昨日「カラハン」ヨリ電報ニ接シタルカ右ニ依レハ露國政府ハ沿海州ニ於ケル鮭鱒ノ漁区中國管及「コーボラチイヴ」ニ二割以内ヲ与フルコトニ決定シ來ル二十七日入

侵略協定成立ノ運ヒニ至リタルモ英吉利ノ反對運動ニ依リ停頓セルカ最近ニ至リ元莫斯科ニ於テ大使トシテ露國人ノ信用厚キ現外務大臣近日莫斯科ニ來ルコトト相成リ居ルヲ以テ今回コソハ露西亜ト波斯トノ關係ヲ愈々親善ナラシムルコトヲ得ヘシ

獨逸ト露西亜トノ關係ハ固ヨリ親善ナルモ獨逸ハ其復興上英吉利ノ資本ト亞米利加ノ資本トヲ必要トシ而モ亞米利加ノ資本ハ英國ヲ經由スルニ非スムハ獨逸ニ流入マサル關係上獨逸ハ常ニ英露兩國ニ振向カサルヘカラサル關係ニアリト述ヘ露西亜政府ノ對欧州及近東外交ノ大体ヲ述ヘタリ

(註) 露國大使館ハ從來屢々「コップ」及「ベセドフスキー」トノ接触ニ依リテ得タル經驗ニ依レハ露西亜ト各方面トノ外交關係ニ付可成リ詳細ナル報告ニ接シ居リ且重要事項ニ就テハ日本ト直接關係ナキ事柄ニ付テモ隨時電報ニ接シ居ルモノノ如シ又「ゾルフ」大使ハ「コップ」大使在任當時ニ於テ「コップ」夫人ト「ゾルフ」夫人トハ頗ル円満ヲ欠キ居レルニ拘ハラス常ニ「コップ」大使ニ對シ指導ノ態度ヲ持シ居リタルコト明ナル事實アルカ

札ヲ行フコトトナレリ尚内々ノ話ナルカ現ニ工場ヲ設ケ居ル漁区ハ之ヲ日本人ニ与フル方針ナリ尚又今回行フヘキ入札ハ一箇年ヲ限り効力ヲ有スルコトトシ引續キ漁業協約ノ談判ヲ繼續シ度キ本国政府ノ意向ナルカ何分日本政府ノ主張強硬ナル為メ莫斯科當局ニ於テ弱リ居ル旨ヲ付言セリ右ニ對シ次官ヨリ御話ノ次第ハ固ヨリ満足ト云ヒ難キモ農林省ニ一応移牒シ置クヘシト答ヘタリ

(二) 政友内閣

「ベセドフスキー」參事官ハ政友内閣ノ成立ハ露國側ニ相當脅威ヲ与ヘ居ル趣ヲ漏シ露西亜側ニ於テハ田中内閣カ張作霖ニ援助ヲ与ヘ北滿ニ於ケル露西亜ノ地位ヲ圧迫セント試ミルニ非サルヤト懸念シ居ル旨ヲ述ヘタルニ付次官ヨリ露國側北滿ニ於テ有スル權利及利益ハ何人モ之ヲ侵害セントスルモノナカルヘク田中内閣カ張作霖ヲ援助シテ友交國タル露國ヲ圧迫スルカ如キハ斷シテ為ササルヘシト思考スル旨答ヘ置キタリ

(三) 南京政府

「ベセドフスキー」參事官ハ露國側ニ於テ蔣介石ノ勢力擴大シ遂ニ南京政府ノ成立ヲ見ルニ至リタル事實ヲ頗ル

重要視居ル旨ヲ述ヘタルニ付次官ヨリ南京政府ノ成立ハ露国政府ニ於テ定メシ満足シ居ラルナルヘシト試ミニ述ヘタルニ之ニ対シ「ベ」参事官ハ露国側ニモ左右両派アリ「ルイコフ」「チチェリン」「カリニン」ノ如キハ穩健ナルヲ以テ南京政府ノ樹立ニ寧ロ同情ヲ注クヘキモ「カラハン」ノ如キハ同政府ヲ好マサルモノノ如ク極ク内密ノ御話ナルカ最近自分ニ向テ上海ニ出張シ江蘇省方面ノ現状ヲ調査スヘキ旨電報シ来リタルモ自分ハ深く思フ処アリテ之ヲ辞退シ結局近日中露国大使館情報係リ「アスタホーフ」ノ出張ヲ見ルコトトナルヘシト語り猶露国政府ノ方針ト第三「インターナショナル」ノ方針トハ御承知ノ通必スシモ一致シ居ルモノニアラス外交方面ニ於テハ第三「インターナショナル」ノ幹事長「スターリン」ハ相当有力ナル発言ヲ為シ居ルモノヲ輔佐スル副幹事長「モロトフ」ハ余程穩健ナル思想ヲ抱キ居リ露国カ目下国運發展ノ為メ着々諸制度ノ改善ヲ計リ居ルニ当リ苟モ対外關係ヲ紛糾セシムルカ如キコトハ避ケサルヘカラストノ意見ヲ抱キ居リ同人ノ意見ハ政府方面ニ可成ノ影響ヲ与ヘ居ル事実ハ注意ヲ要スル旨付言セリ

大臣ヨリ先般伺ヒタル貴大使ノ意見ニ対シ約束ニ從ヒ本日ハ自分ヨリ其各項目ニ付御答ヘスヘシトテ別添(省略)(附屬書参照)通り意見ヲ述ヘラレタリ

右ニ対シ露国大使ハ大臣ノ率直ナル御意見ヲ伺ヒタルヲ謝スル旨ヲ述ヘ右御意見中ノ或モノニ付テハ何レ日ヲ改メテ自分ノ意見ヲモ申上ケ以テ双方ノ諒解ヲ更ニ深く且完全ニスルコトト致度存スル処差当リ只今二ノ問題ニ付申上度処アリトテ

一、漁業協約問題ニ付

先刻ノ御話ニ依レハ日本政府ハ約二ヶ月以前ニ最後ノ讓歩案ヲ提示セラレタリトノコトナルカ双方意見ノ相違セル詳細ノ点ニ付テハ勿論自分ハ之ヲ承知セサルモ唯交渉ノ経過ニ付自分ノ聞キ居ル処ニ依レハ露国側ノ提議ニ対シ田中大使ハ本国政府ニ請訓セラレ其ノ回訓ヲ俟チ居ルルカ故ニ會議ハ現在ニ於テ全ク行詰リノ形トナリ居ルモノナリトノコトナリ抑々露国側ノ態度ハ本年ノ出漁問題解決ニ対シテ執リタル処ニ依リ閣下ニ於テモ充分御諒解アルヘク露西垂トシテハ本協約ノ改訂ニ付テモ此態度ヲ以テ進ムコトハ屢次申上ケタル通りニシテ現ニ労働問題及工場問題等ニ付テハ

最後ニ昨年夏日本ニ来リタル露西亜「オペラ」団ハ今年モ再ヒ日本ニ来ルコトトナリ一行尽ク天羽總領事ヨリ旅券ノ査証ヲ受ケタルモ团长「ガリサイ」及其ノ妻ノ兩人ハ何故カ査証ヲ受クルニ至ラス甚タ困難シ居ル模様ナル処右兩人ニ就テハ自分ニ於テ其ノ行動ニ付保証ヲ与フヘキニ付速ニ査証ヲ与ヘラルル様特ニ配慮ヲ得度旨申述ヘタリ
(昭和二年四月二十二日 出淵次官口述速記)

106 昭和2年6月16日 田中外務大臣 在本邦ソ連邦大使 會談

漁業問題等に関する田中大臣と駐日ソ連大使との會談要領

付記 昭和二年六月二十一日澤田書記官・在本邦ソ連邦大使會談要領
漁業条約改訂問題に関する駐日ソ連大使の發言振りについて

*大臣會見録(十三)

六月十六日田中大臣ハ露国大使ヲ官邸ニ招致シ午後三時ヨリ二時間ニ亘ル間ニ於テ左記要領ノ談話ヲ交ヘラレタリ

露国トシテハ法令ノ規定ノ範圍ヲ超ヘテ迄モ尚日本側ノ希望ニ副ハンコトヲ努メタル位ナルヲ以テ此点充分御諒解ノ上日本側代表ニ対シテモ讓歩ノ態度ヲ以テ今後ノ交渉ヲ促進セシメラルル様訓令ヲ与ヘラレムコトヲ切望スト述ヘ之ニ対シ大臣ヨリ双方意見相違ノ詳細ニ付テハヨク之ヲ取調ヘシメ其ノ結果ハ近日中澤田ヲシテ貴大使ノ承知ニスルルコトトスヘキモ曩ニ日本側ノ提示シタル案ハ最後のノモノナルコトハヨク本国政府ニ伝達アリ度ヲ希望セラレ露国大使ハ露西亜側トシテハ右日本側ノ最後案ニ対シ更ニ意見ヲ述ヘ之ニ対スル日本側ノ回答ヲ俟チツツアルモノト諒解スルヲ以テ何分右御取調ノ結果ヲ俟ツコトトスヘク何レニシテモ田中大使ニ対シテハ更ニ妥協ノ態度ヲ執ル様訓令ヲ発セラレ間敷哉ト述ヘ

大臣ハ之ヲ承知シタル旨ヲ答ヘラレタリ

二、実ハ先般来自分ノ非常ニ不安ニ驅ラレツツアル問題アルカ為本日ノ御話トハ關係ナキニ拘ラス思切ツテ御質ネ致度次第ナルカ昨今日本新聞及英國ノ新聞等ニ日英同盟復活問題散見シ倫敦ニ於テハ松井大使屢英國外務省ヲ訪問シテ長時間ノ會見ヲ遂ケラルル趣ニシテ又当地ニ於テハタイレ

一 大使過日平戸ニ於テ記念碑除幕式ノ際此問題ニ付閣下ト
会见ヲ遂ケタル旨ヲ話シタル趣ノ報道モアル処英國政府ヨ
リ果シテ該同盟復活ニ付何等提議アリタルモノナリヤ御差
支ナキ限り御話ヲ得レハ幸ヒナリト述ヘタルニ

大臣ハ前記報道ハ何レモ根拠ナク英國政府ヨリ我方ニ對シ
御話ノ如キ提議アリタルコトナシ先般來英國トノ間ニ頻繁
ナル意見ノ交換ヲ行ヒタルハ支那ノ狀勢ニ顧ミ英國ヨリハ
日本側ヨリ更ニ多數ノ兵力ヲ支那ニ派遣センコトヲ希望シ
我方ニ於テハ未タ狀勢左迄逼迫セルモノト解セサルカ故ニ
其ノ希望ニ応セサル有様ニシテ之カ為メ自分ノ所ニモ英國
大使ノ來訪スルコト屢々ナル有様ナルカ日英同盟ノ如キハ
今日ノ事態ニ於テ成立スヘキ性質ノモノニモ非ス又自分ト
シテ斯ノ如キモノヲ成立セシムル意図更ニナク此点ハ自分
カ単ニ外務大臣トシテノミナラス帝國政府ノ總理トシテ貴
大使ニ言明スル次第ナリト答ヘラレ

大使ハ日英同盟問題カ自分ノ最モ利害ヲ感スル処又最モ不
安ヲ感スル処ナルコトハ閣下ニ於テモ充分御推察アルヘク
實ハ本日迄ニ密カニ不安ニ襲ハレ居タル次第ナルカ只今ノ
御言葉ヲ聞キ全ク安心シテ辞去シ得ルハ誠ニ喜フ処ナリト

會議ニ諮リ度シトノコトナルニ付該提案ヲ書面ニ認メラ
レ度キヲ求メ

大使ハ之ヲ承諾シ兩三日後ニ之ヲ送付シタル趣ナリ

(二)四月二十二日ストモニアコフ氏ハ田中大使ニ對シ日本案
ニ對スル回答遅延セルハ目下議會開會中ノ為メ閣議ヲ中
止セルニ依ルモノナルモルイコフ氏ト既ニ關係閣員ト下
相談ヲナシ或ル程度ノ讓歩ヲ為ス意ナリト述ヘタル趣ナ
ルカ之ニ付テハ未タ何等ノ沙汰ナシ

(四)其後確詰工場關係ノ労働条件ニ付露西亞側ヨリ我方ノ正
式回答ヲ求メタル趣ナルモ本問題ハ前頭(一)ノ三問題ニ比
スレハ我方トシテハ比較的輕微ナル問題ト考ヘ居ルカ故
ニ右重要ナル三点解決ノ上該労働条件ノ解決ヲ計リ度キ
意向ニテ差当リ只管右三点ニ對スル露西亞側回答ヲ待チ
居ル次第ナリ

右ノ状態ナルヲ以テ貴大使ヨリ露國側ニ於テ速ニ回答ヲナ
シ以テ交渉ヲ促進セシムル様取次カレンコトヲ希望スル次
第ナリト述ヘタルニ

大使ハ右三点ニ関スル日本側提案ハ最後ノ讓歩案ナリトノ
コトナルカ成程或ル点ニ於テハ日本側ニ於テ進ンテ讓レ

ノ謝意ヲ述ヘテ引取りタリ

(昭和二年六月十七日澤田電信課長口述速記)

(付記)

※大臣会见録 十三關係

漁業協約改訂問題ニ関シ露國大使往訪会谈要
領

澤田書記官

六月二十一日午前露國大使ヲ往訪シ過日田中大臣トノ会谈
(大臣会见録十三参照)ノ際ノ大臣ノ約束ニ從ヒ取調ヘタ
ル漁業協約改訂交渉ノ經過ヲ御話スル為メ來訪シタリトテ

(一)四月二日ノ全權會議ニ於テ田中大使ハ漁区取得問題國營
企業並コオペラチーヴ問題及確詰工場問題ノ三点ニ関ス
ル日本政府ノ最後讓歩案ヲ説明シタルニ露國側ニ於テハ
之ニ反對ノ意見ヲ述ヘテ議論ノ応酬アリタル趣ナルカ田
中大使ヨリ露西亞側ノ反對意見ハ對案トシテ提出セラレ
度キヲ要求シ露西亞側ハ何分ノ意見ヲ開陳スヘキヲ約シ
タル趣ナリ

(二)四月八日ストモニアコフ氏ハ田中大使ニ對シ前記我方提
案ニ付首相ルイコフ氏に説明シタル処首相ハ人民委員會

ル所アルカ如キモ他ノ点ニ於テハ既ニ讓レル所ヲ又新ニ主
張要求シ居ル所モアリ例ヘハ工場ノ數及經營年限等ノ如シ
之等ノ点ヨリ露西亞側ニ於テモ直ニ日本提案ニ同意シ得ス
或ハ之カ為メ回答ヲ遅延シ居ルヤモ知レサル旨ヲ述ヘタリ
依テ本官ハ右日本提案ノ三点ニ関スル四月二日ノ全權會議
ニ於ケル双方ノ意見ノ相違ニ付テハ自分モ茲ニ其摘要ヲ持
參シ居ルカ故ニ説明ハ容易ナルモ本日來訪ノ目的ハ此処ニ
アラス實質的ノ討議ハモスコトニ於テ為サレツツアルモノ
ナレハ露西亞側ニ反對意見アラハ田中大使ノ請求セラレタ
ル通り對案トシテ速ニ提出セララル様貴大使ヨリ申送ラレ
ンコトヲ希望スル次第ナリト述ヘ

大使ハ然ラハ自分トシテモ實質ニハ触レス手續上日本側ニ
於テハ四月二日ノ提案ニ對シ露西亞側ノ回答ヲ待チ居リ交
渉遅延モ一ニ之カ為メナリト解シ居ル旨ヲ申遣ルヘシト答
ヘタルニ依リ

本官ハ之ト同時ニ先日モ田中大臣ノ希望セラレタルカ如ク
右四月二日ノ提案ハ日本政府ニ於テ熟考ノ結果ニ基クモノ
ニシテ日本側最後ノ讓歩案ナル旨ヲモ申添ヘラレ度旨付言
希望シ置キタリ

編注 大臣・次官会見録中漁業問題にも言及した文書は、本文書のほか1、9、14文書参照。

107 昭和2年10月3日 武富通商局長私見

日露漁業協約調印に関する武富通商局長私見

日露漁業協約調印ニ関スル私見

武富通商局長

(欄外記入)

- (一) 条約ノ調印乃至成立ヲ以テ漁業問題ノ大段落ト為スコトハ根本的ノ誤謬ナリ卑見ニ依レハ条約ノ成立ハ漁業問題解決ノ一步ニ過キス漁業問題ノ解決ニハ第一条約ノ締結第二締結シタル条約ノ実施ニ関シ我方ノ有利ナル地歩ヲ確定スルコトニシテ換言スレハ成ル可ク急速ニ且ツ有利ニ兩國間漁業ニ関スル事態ノ確立ヲ計ルコトナリ
- (二) 其ノ当否ハ之ヲ別トシ条約交渉上ノ既決事項ハ飽ク迄既決事項ニシテ今更之ヲ変更セントスルハ今後ノ交渉ヲ益益困難ナラシムルコトハ覚悟スルヲ要ス
- (三) 条約実施ノ準備行為トシテ事前ニ内協定ヲ了セントノ見解ハ道理アルモ最早諸問題解決シ殊ニ先方ヨリ調印ヲ迫リ来ル際ニ於テ調印ヲ差控ヘテ此ノ内協議ヲ進メントス

- (四) 不幸ニシテ条約ノ眼目タル漁区選定ト云フ問題ハ既決事項中爾後ノ協定ニ俟ツモノト決定セラレ且ニ該条項ヲ翻スヘカラスル以上ハ之等ノ成行ニ拘泥スルコトナク此際ハ「コ」問題曲リナリニモ我方ノ主張ニ近ク解決シ國營排斥問題モ大体我方主張通り解決シタル時期ヲ潮時トシ条約ニ調印シ其ノ成立ヲ急ク方結局事態ノ確立ヲ速ニスル所以ニシテ國家ノ利益ヨリ云フモ亦當業者ノ利害ヨリ云フモ利益ナリト考ラル此際徒ラニ事端ヲ刺戟シテ時日ヲ遷延シ結局ニ於テ実効ヲ少クスルカ如キハ不得策ナリト憂慮セラル

- (五) 調印後条約ノ発効迄ニハ少クモ三ヶ月ヲ見積リ置カサルヘカラス卑見ニ依レハ今直ニ条約ニ調印スルモ實際条約ヲ来年度ノ競売(条約ニ依レハ二月)迄ニ間ニ合フ様発効セシムルコトハ時日ノ關係上矢張り相当ノ困難アルヘシト考ヘラル御承知ノ通り条約ニ依レハ競売前競売規則其他ヲ先方ニテ公布セネハナラス又夫迄ニ所謂漁区ノ問題ヲ解決セネハナラス其他種々枝葉ノ点ニテモ支障アルヘシ然レトモ此等ノ問題ハ例ヘハ調印後直ニ漁区問題ニ交渉ヲ進ムルトカ又ハ二月ノ競売ハ本年ニ限り四月ニ延

ルハ何人カ局ニ当ル共難事ノ難事ニシテ其ノ成否ハ逆睹スルニ難カラス(結局ハ日本側ノ正当ナル主張ト認めラルル漁区ニ対シテハ充分日本側ニ有利ニ解決スヘシト云フカ如キ形式的ノ言質ヲ得ル程度ニ終ル位カ積^(四)ノ山ナラスヤト憂慮ス)

- (四) 田中大使カ我方ノ訓令ヲ其ノ儘実行セス躊躇シ居ル間ニ先方ヨリ調印ヲ迫マラルルカ如キ事態ノ急変ヲ来シタルハ甚タ遺憾ナルモ日露間ニ漁業問題ヲ我方ニ有利ニ解決セントスル大問題ノ前ニハ一ノ小問題ニシテ今後ノ方針ヲ決定スル上ニハ全然考慮ノ外ニ置カサルヘカラス
- (五) 卑見ニ依レハ當業者側ニ於テ現ニ二、三ノ人々ノ口吻ニ漏ラシタル如ク漁業協約ハ不成立ノ儘トナシ包括契約ニテ今後数年ヲ経過シタシトノ説ヲ政府ニ於テ採用ストセハ条約商議ノ如キハ有耶無耶ニ為シ置キテモ差支ナキ次第ナルモ日露間ノ國際關係及漁業權確保ノ趣旨ニ立ツモノトシテハ斯ノ如キ當業者ノ説ニ賛同スルハ考物ニシテ所謂將來ノ大計ニ基キ寧ロ此ノ種ノ短見又ハ一時ノ利益ヲ目当ニスル如キ俗説ハ之ヲ排斥スルカ当然ニ非スヤト考ヘラル

- (六) 来年度ノ漁期迄ニ合ハサル場合ハ基本条約第三条ニ依リ一九二四年ノ実行方法アリトノ見解ハ道理ナレトモ右実行方法ヲ行フ場合ニハ条約成立セサル限り國營ノ横暴ハ之ヲ防クノ途無ク自由ニ競売ニモ参加シ留保漁区ヲモ取得スルコトヲ如何ニ防キ得ヘキヤ又「コ」ノ競売参加モ無制限ナル事態ヲ如何ニ処置スヘキヤ何人モ確信ナキ次第ト思考ス要スルニ不安又ハ憂慮ハ所謂漁業權ノ大眼目タル實際ノ漁区ヲ確定セスシテ条約ニ調印スルヨリモ一層大ナルモノニ非スヤト確信ス

- (七) 此際条約ニ調印セントスルモ其ノ調印ハ決シテ無条件ナル調印トハナシ難シ私案ニ依レハ条約調印ニ先チ漁区問題ノ協定ハ今後ニ於ケル事態ノ確立上最モ必要ナルモ条約ノ発効遅延シ来年度漁期ニ間ニ合ハヌ場合ハ日露兩國ノ不利益ナル所以ヲ先方ニ説得シ調印ノ条件トシテ左ノ二事項ニツキ公文交換又ハ其他ノ然ル可キ形式ニ依リ

革命後ニ於ケル露国トノ国交恢復ハ独リ日露兩國ノ問題ナルノミナラス東洋全体ノ平和即チ延イテ世界ノ平和ニ影響スル大ナルヘキヲ思ヒ切ニ焦慮シツツアル時ニ際シ大正十二年彼我修交談判ノ局ニ当リタル彼ノ「ヨッフエ」氏ノ支那ニ在リテ宿痾ニ悩ミツツアルヲ聞キ病ヲ我國ニ養ハレンコトヲ勸メ氏ヲ招来シテ病間新興蘇連邦ノ現状、新國家ノ精神、國民ノ抱負、希望等ヲ問ヒ又我國ノ歴史、民性、社會組織ヲ説明シ我國建國ノ基礎、精神、社會制度、經濟組織ノ蘇連邦ノ夫レト異ルモノアル可キ理由ヲ諒解セシメ此思想ノ差異ニ基礎ヲ置キ以テ兩國間ニ意志ノ疏通ヲ謀リ親善ノ道ヲ開カンコトヲ試ミタリ時ニ露領水域ニ於ケル漁業問題ノ難関ニ遭遇シ當時沿海州ヨリ「カムチャツカ」ニ至ル地方ハ既ニ蘇連邦政府ノ治下ニ統一セラレ先年ノ如ク自由出漁ノ手段ニ抛ルノ口実ナク且漁期既ニ切迫シテ正式ニ漁業協約ヲ締結スルノ違ナク又當業者ノ請フニ任セテ再ヒ自由出漁ヲ許サンカ國交恢復ノ前途愈暗澹タラン已ムヲ得ス時ノ政府ハ小生ヲ介シテ詳細ノ事情ヲ開陳シテ「ヨッフエ」氏ニ訴ヘ同氏ノ好意ニ由リ蘇政府ニ斡旋シ臨機暫定ノ処置ニ依リ大正十二年度ニ於テハ正式且ツ合法的ニ漁業ニ

先方ノ承諾ヲ確保シ置キ度シ

第一調印後條約ノ発効ヲ待タス成ル可ク速ニ國營留保漁区ヲ先方ニテ選定シ將來ノ協議ニ資スル為ニ我方ニ内示スルト共ニ我方當業者ニ於テモ調印後何時ニテモ詰工場所所在漁区及ヒ其ノ付屬漁区ニ関シ準備ノニ先方當該官憲ト商議ヲ開始シ（発効後ニ非ラサレハ當業者ノ立入ルコト面白カラストセハ政府ニ於テ取次クコト）兩國政府又必要ノ場合ハ協定ニ関スル商議ヲ何時ニテモ開始シ得ルコト

第二條約ノ発効手續遅延シ時日ノ關係上條約既定ノ各事項ノ実行ハ事實上不可能ナル場合予想セラルル時ハ大体調印シタル條約ノ規定ニ準拠シタル暫定取極ヲ結フコト並ニ漁区選定ノ問題ハ大体本年度通りノ実行法ニ依リ今年一継続スヘキコト

(H)前記第一ノ件ハ先方ニテモ別段応諾ヲ難シトスル事情ナカルヘク場合ニ依リテハ我方ノ最も希望スル漁区例ヘハ二百四十三号ノ漁区ノ如キニツキ何等カ我方ニ有利ナル約言ニテモ取付ケ置ク余地モ絶無ニハ非サルヘシ前記第二ノ条件ニテ若シ漁区選定ノ問題カ本年度通りノ

実行方法ニ依ルコトナルヲ得ハ来年度漁期切迫ノ際一九二四年度ノ実行方法ニ依ルトカ依ラヌトカノ面倒ニシテ且不安ナル事態ヲ生スルノ虞ヲナクシ結局本邦當業者ノ利益トナルヘシト思考ス

昭和二年十月三日（武富通商局長口述）

（欄外記入）

私見トシテ將來ノ為水産局長ニ写送付ノ考ニテ記草シタルモ十月三日同局長來訪ノ節冷静ナル見地ヨリスル調印ノ利害モ逐一上局ニ説明シタリト述懐シオリタルニ付一先ヅ送付見合スコトトセリ
武富（サイン）

（参考一）

108 昭和3年1月

後藤新平訪ソと漁業条約締結交渉

- (1) 「漁業協約調印斡旋顛末」
- (2) 「東京ト往復電報」

編注 次に掲載する文書は後藤新平復命書付録より採録した。

(1) 「漁業協約調印斡旋顛末」

漁業協約調印斡旋顛末

従事スルヲ得タリシナリ測ラサリキ此等ノ事導火線トナリテ遂ニ大正十四年北京ニ於テ兩國間ニ修交基本條約ノ締結ヲ見タルハ小生ニ於テハ望外ノ幸ニシテ誠ニ國家ノ為メ慶賀ニ堪ヘサリシナリ

其後蘇連邦ニ於テハ所謂新經濟政策ニ拠ル諸施設モ着々進歩シ革命以後既二十年ヲ経過シ其結果大ニ見ル可キモノアリト聞キ最近ノ政治經濟社會教育等諸制度ノ実状ヲ觀察シ兼テ要路ノ諸士ト親ク談話ヲ交ヘ赤裸々ニ其思想抱負希望ヲ聞キ以テ参考ノ資ニ供セント欲セリ然ルニ昨年初測ラヌ田中首相ヨリ蘇連邦訪問ノ慫慂ヲ受ケ意大ニ動キタルモ初夏ノ交ニ冒サレタル疾未タ癒ヘス回答ニ躊躇シタリ其後疾漸ク快癒ニ向ヒタルヲ以テ遂ニ意ヲ決シ政府ノ諒解ヲ得テ何等官命ヲ帯ヒス単ニ一私人トシテ蘇連邦ヲ訪ヒ宿望ヲ遂クルコトナレリ

昨昭和二年十二月五日東京出發伊勢ニ大廟ヲ拜シ桃山明治天皇ノ御陵ニ詣テ神戸ヨリ海路大連ニ渡リ十四日哈爾濱ヲ發シ十五日滿州里ニテ蘇連邦政府ノ特別車ニ移乗シテ以来昭和三年一月二十九日滿州里ニ帰着スル迄四十五日間一私人トシテノ訪問ナルニ拘ハラヌ國賓ノ礼ヲ以テ優遇セラレ

一行隨員ノ末ニ至ルマテ往復ノ列車ハ勿論莫斯科「レニングラード」滞在一ヶ月間ノ宿泊見物觀劇視察等總テ政府ノ賓客タル待遇ヲ受クルコトナリタリ
 小生ハ最初ノ三日以後ハ政府ノ優遇ヲ辞退シタキ旨申入レタルモ聴カレス遂ニ田中大使ノ斡旋ニ由リ隨員ノ宿泊タケハ三日以後優遇ヲ辞スル事ヲ承諾セリ
 往路「チタ」駅ニテ昨年極東政庁ヨリ日本へ派遣セラレタル經濟事情視察団ニ加ハリタル「ザバイカル」鐵道長官「アルチュモツフ」氏ノ歡迎ヲ受ケ「チタ」ヨリ「ヒロツク」二百露里間特ニ長官専用車ニ華美ノ食卓ヲ備ヘ長官始メ鐵道幹部及執行委員會ノ首脳部搭乘終日小生等一行ヲ歡迎セリ

其後莫斯科ニ至ルマテ沿道主要駅ニ於テハ或ハ人民代表執行委員會代表大學代表者等ノ送迎ノ礼ヲ受ケタリ或ハ夜中寒威凜烈零下四十度ノ西比利亞駅頭ニ挨拶ヲ述ヘラルル等懇懃ノ情感激無量ナリキ

又ザバイカル鐵道ノ一駅迄出迎ヘタル外務人民委員部儀式課次長代理「コスチュコフスキー」氏ハ列車内ニ於テ諸事斡旋ノ勞ヲ採リタルノミナラス莫斯科滞在中概ネ常ニ小生

項)ヲ活用シ個々ノ漁区ニ付兩國政府間ノ協定トシテ本邦人ニ貸下クル内諾ヲ取付クルコト

四、第四段トシテ前記一、二、三、以外ノ漁区及其他新規開設ノ漁区ヲ一般競売ニ附スルコト

十二月二十二日莫斯科着翌二十三日田中大使ヲ訪問シ小生等東京出發後談判進捗ノ經過ヲ聞カントシタルニ大使ノ答ハ意外ニモ政府ヨリノ訓電ハ大使ニ交渉ヲ進メヨトノ意ニアラスシテ小生着後小生自身交渉ニ当ルヘキニ付キ開談商談等ノ為メ小生ニ充分ノ便宜ヲ供与ス可キナリト諒解セラ

ルルモノノ如シ
 故ニ大使ニ何等談判ニ着手スヘキ権限ヲ与ヘラレタルニアラス拱手小生ノ到着ヲ待チタリトノ事ナリシ此ハ大使ノ誤解カ小生ノ考違カ大使ノ権限ヲ明カニシ小生ノ立場ヲ正確ニ諒解スルノ必要アリト考ヘラレタリ

同日午後大使ニ滞同セラレ外務人民委員「チチェリン」氏副委員「カラハン」氏ヲ訪問シテ挨拶ヲ述ヘ翌二十四日更ニ「カラハン」氏ヲ訪ヒ漁業協約ニ関シ蘇政府ノ大体ノ意向ヲ知ラント欲シ種々談話ヲ試ミタル後夫レトナク漁業協約ニ関シ調印ノ渋滞スルハ蘇連邦國營企業ノ發展産業組合

ノ旅館ニ在リテ一行周旋ノ任ニ當リ訪問會談視察等ノ便宜ヲ計リ又莫斯科滞在中旅館内外ニ於テ警護ノ任ニ當リタル二名ノ國家保安部員ト共ニ帰途蘇連邦國境迄一行ヲ見送ラシムル等優遇至ラサルナク一私人ノ旅行者タル小生ニ対スル此ノ如キ對待ハ畢竟蘇連邦政府及人民カ如何ニ日本國及日本臣民トノ親善ヲ熱望シテ止マサルカノ表徴ト觀ルコトヲ得可ク真ニ小生ノ感激措ク能ハサル所ナリシ

東京出發前田中首相ヨリ當時懸案中ノ漁業協約調印ノ事ニ関シ彼我當事者間ニ斡旋ノ勞ヲ採リ解決ニ尽力スヘク依頼ヲ受ケ田中大使ニ訓令セラルヘキ交渉方針ヲ内示セラレタリ即チ

一、先ツ第一段トシテ我方ノ希望スル缶詰工場所在漁区及缶詰工場附屬漁区ヲ指摘シ先方ノ内諾ヲ取付クルコト

二、第二段トシテ露國側ニ於テ留保ヲ希望スル國營漁区内示ヲ受ケタル上我方ノ利益ヲ損傷スルモノト認メラルル漁区ニ付テハ我方ニ於テ到底容認シ難キ理由ヲ説キテ代漁区ヲ選定セシムルコト

三、第三段トシテ我現有漁区ハ漁業條約案第二條第二項ノ規定(例外トシテ兩國政府間ノ協定ニ依ル漁区取得ノ條

ノ活動等ニ由リ二十年来日本人カ苦心慘憺ノ結果築キ上ケタル漁業上ノ經濟的地位ヲ奪回セラルルニアラスヤトノ恐怖ヨリ當業者カ頻リニ日本政府ニ迫リ自己ノ地位ヲ失ハサランコトヲ懇請スル為メニ外ナラスト思惟ス蘇政府ニ於テハ如何ニ之ヲ觀察セラルルヤ將又日本人ノ漁業上ノ地位ヲ漸次奪回セラルル意志アリヤト率直ニ問ヒタルニ「カラハン」氏ハ蘇政府ニ於テハ決シテ此ノ如キ意志ナシ充分好意ヲ以テ日本人既得ノ地位ヲ尊重シ實際上ノ利益ヲ害セサル様考慮ヲ払フ可ク又國營漁区選定ニ就キテモ大体ニ於テ出來得可キ限り日本人現有漁区ハ國營漁区トシテ留保セサル可シトノ事ナリ此前段ノ言明ハ双方ノ諒解ニ留メ置ク可キ事項ニシテ如何ナル形式ニ於テモ文書ニ認メシムヘキ筋合ノモノニアラスト考ヘタルニ付二十五日發拙電ヲ以テ小生ノ東京出發前政府トノ此事ニ関スル諒解ヲ確メ併セテ蘇政府ニ於テ國營漁区ノ選定ニ関シ前日「カラハン」氏ノ言明シタル如ク日本人ノ現有スル漁区全部ハ大体ニ於テ國營漁区トシテ蘇政府ニ於テ留保セサルコトノ内諾ヲ何等カノ形式ニ於テ得能フナラハ政府ニ於テハ直チニ調印決行ノ意志アリヤ先方へ正式交渉ノ都合上予メ御内意ヲ伺ヒタリ之ニ

對シ十二月二十八日ノ貴電ニ由リ小生ノ立場ハ小生考ノ通り正確ニ諒解シタルモ蘇政府へ要求ノ御趣旨ハ
第一、日本人ノ現有漁区全部ハ大体ニ於テ国营漁区トシテ蘇国側ヨリ留保セサルコト

第二、条約成立ノ上日本人カ其現有スル漁区ニ付キ条約第二條第二項ニ依リ無競売貸下ノ申出ヲ為ス場合ニ蘇国官憲ハ好意ヲ以テ之ニ応スヘキ用意アルコト

ノ二点ヲタニ此際何等カノ形式ニ依リ蘇政府ニ於テ内諾ヲ与フルニ於テハ直チニ条約ノ調印ヲ承認スルニ決定セラレタル趣ナルモ抑モ漁業協約改訂會議ハ協約全般ニ亘ル諸問題ノ討議ヲ了シ殊ニ難件タリシ労働法問題国营問題併詰工場問題産業組合問題モ解決シ条約案ハ既ニ大体ニ於テ確定シ日本側ヨリ調印ニ先タチ国营留保漁区ノ決定並併詰工場所在漁区及工場付屬漁区ノ決定ヲ提議スルニ及ヒ蘇国側ノ峻拒ニ会ヒ停頓シタルモノナリ田中大使へ訓令セラレタル所謂四段ノ交渉方針中第一、第二段ハ即チ會議ノ停頓ヲ來タセル原因トナリタルモノナレトモ此等二段及第四段ノ如キハ仮令蘇政府ノ承諾ヲ得ストスルモ条約ノ各項ニ依テ充分ニ保護セラレ何等憂フヘキナシト雖モ第三段ニ至リテハ

然ルニ本年一月四日貴電ハ尚協約第二條第二項（即チ無競売貸下）ノ適用ニ結付ケ「カラハン」氏カ蘇政府ノ意志トシテ概括的ニ小生ニ言明シタル所ヲ捉へ何等カノ形式ニテ之ヲ内諾トシテ取付ケ得ルナラハ調印決行ノ御趣旨ト解セラレ尚同時ニ田中大使へ御電訓ノ趣旨モ大使ヨリ委曲説明ヲ聴取り大使トモ腹藏ナク意見ヲ交換シタルモ前陳ノ如ク日本人現有漁区全部ハ大体ニ於テ（僅少ノ例外ハ之ヲ認め協約ノ各項ニ依リ兩國政府ノ協定ニ待ツヘキハ勿論ナリ）国营漁区トシテ留保セサル旨ノ内諾ハ其當時何等カノ形式ニ於テ取附ケ得可カリシモ併詰工場關係漁区以外ノ漁区（中小漁業者ノ漁区ハ此内ニ含マル）ニ至ルマテ事実上原則トシテ無競売貸下ヲ何等ノ形式ニ依ルモ之ヲ認諾セシムルコトハ協約第二條ノ原則ヲ其但書ニ依リ覆サントスルモノニシテ協約案ノ精神ニモ反シ到底蘇政府ノ承諾ヲ得ルコト困難ナルヲ以テ一月六日拙電ヲ以テ御再慮ヲ仰キタリ之ニ對シ一月九日貴電及翌十日田中大使へ御電訓ノ趣意ハ第一点ノ内諾ト共ニ第二点ニ関シ「カラハン」氏カ小生ニ言明シタル所ヲ何等カノ形式方法ニテ其言質ヲ明ニシ置カサレハ條約調印後實際ノ交渉ニ當リ効果尠カル可キニ付キ

競売主義ナル條約案ノ精神ヲ根本ヨリ覆サントスルモノニシテ到底蘇政府ノ承諾ヲ得ルコト困難ナルコト火ヲ睹ルヨリ明ナリト思ハレタルモ兎モ角御趣旨ヲ体シ此等ノ問題ヲ提ケテ「カラハン」氏ト正式ニ交渉ヲ試ミタリ蘇政府ハ第一点国营漁区ノ事ニ付キテハ大体承認ノ意ヲ表シタルモ第二点ノ無競売貸下ノ主義ヲ條約第二條第二項ノ適用トシテ一般ノ日本人現有漁区ニ及ホスコトハ到底承諾セシムル見込ナク又此問題ヲ商議スルコトスラ「カラハン」氏ノ権限ニ屬セサルコト故強テ此点ヲ主張セラルルナラハ最高經濟會議ニ附スル外ナシトテ「カラハン」氏自身ニ於テモ不同意ナリ又最高經濟會議ニ提出スルモ到底通過ノ望ナキ意ヲ仄メカシタレハ此上強テ一般ノ無競売貸下ノ交渉ヲ試ムルコトハ蘇政府ニ非常ニ惡感ヲ与へ其結果ノ如何ニ拘ハラス結局當業者カ實際經營ノ上ニ蒙ル可キ不便不利測リ知ル可ラサルモノアルヲ恐ル然シナカラ「カラハン」氏ハ蘇政府ニ於テハ日本人ノ既得ノ地位ヲ尊重シ實際上ノ利益ヲ害セサル様充分考慮ス可キコトヲ明言シタレハ此程度ノ關係ニ於テ條約調印ヲ決行セラルルヲ得策ト考へ十二月三十日拙電ヲ以テ其趣旨ヲ申進メタリ

第二点ニ関スル諒解ヲ今少シク具体的ニ取極ムルコトヲ得ハ調印ニ御異存ナク又已ムヲ得サレハ第二点ニ就テハ中小漁業者ノ現有漁区ニ付キ先方ニ於テ充分ノ好意ヲ以テ日本人ノ既得ノ地位ヲ尊重シ實際上ノ利益ヲ害セサル様考慮スヘキ旨ノ声明タケニテモ取付ケ置キタキ御希望ナルコトヲ知りタレハ大体此御趣旨ニ執リ更ニ「カラハン」氏ト交渉ヲ重ネ小生自身ノ案トシテ一月十一日

蘇連政府ハ漁業協約適用地域ニ於テ漁業上日本臣民カ獲得セル經濟上ノ地位ヲ認め日本臣民ノ實際上ノ利益ヲ害セサル様充分ノ考慮ヲ払フ用意ヲ有ス而シテ

千九百二十七年ニ於テ日本国民カ實際ニ經營セル漁区ハ大体ニ於テ之ヲ国营企業ノ經營ノ為メ保留ス可キコトヲ申出ササル可シ

ト云フ意味ノ言明ヲ何等カノ形式ニ於テ与へラルルコトヲ承諾セラルレハ日本政府ヲシテ直チニ協約ニ調印セシムルコトニ尽力ス可シト申入レ一方政府ニ對シ一月十二日夜発信

一月九日貴電ヲ拝誦シ同時ニ田中大使へ御電訓ノ趣旨ヲ聴取り大体御趣意ノ在ル所ヲ諒解シタレハ此際小生ノ考ニ御

一任ヲ願ヒ田中大使ト親ク協議ノ上小生出発(一月十四日)前解決シタキカ故ニ予メ至急大使へ協約調印訓電アリタキ旨申進メタリ

然ルニ一月十三日及十四日ニ亘リ田中大使及小生ニ達シタル貴電ニ依レハ政府ニ於テ尚未タ小生ノ真意ヲ解セラレサルモノノ如ク甚遺憾ト考ヘタルニ付キ一先ツ出発ヲ見合セ一月十四日左ノ電信ヲ發シ蘇政府内ノ空氣当局者ノ意向感想等ヲ詳細報告シ併セテ小生ノ真意ノ在ル所ヲ申進メ更ニ御再考ヲ煩ハシタリ

十三日貴電拜誦十四日田中大使へ御電訓ノ次第モ承知セリ六日拙電ノ後段(缶詰工場關係漁区以外ノ漁区ニ付キテ迄モ無競売ニテ貸下ヲ約セシムルコトヲ何等カノ形式ニテ取極メルコトハ協約第二条ノ原則ヲ但書ニ依リ覆サントスルモノニシテ条約案ノ精神ニモ反シ到底困難ナリ云々)ニ関シ御注意ヲ私ハレサルハ甚遺憾ナリ政府ニ於テハ少クトモ中小漁業者ノ現有漁区(約百二十四ト聞ク)ニ付キテハ之ヲ無競売ニテ貸下ヲ受ケントスル主張ヲ固持セラレ右主張ヲ貫徹スルニ充分ナル程度ノ声明ヲ何等カノ形式ニ依リ条約調印前ニ取付ケ置カントスル希

カ如キ申出ヲ為スハ大局上面目カラサルノミナラス我当業者ノ将来ノ為メニモ却テ不利ナリト認メラルルニ依リ此際御再考ヲ切望ス幸ニ卑見御採択ヲ得ハ不肖ニ於テ此上トモ微力ヲ致ス可キモ然ラサル場合ハ乍遺憾此上ノ幹旋ハ御免蒙ルノ外ナシ尙小生ノ出発ハ十二日發拙電ノ御回電ヲ待ツ為メ一時延期セルモ十七日出発ニ決定ス

此頃ニ及ヒ日本ニ於ケル当業者ノ没義道ニシテ不謹慎ナル運動決議等ノ世間ニ伝ハルモノ一々手ニ取ル如ク莫斯科ニ反響スルモノノ如ク蘇政府ノ態度ニ漸ク變調ヲ来タシ日本ニ於ケル当業者ハ蘇側ヲ威圧スルノ一法ナリト考ヘタルヤモ知ラサレト事實ハ却テ反對ノ結果ヲ生シ蘇政府ノ態度ハ漸次強硬トナリ閣議ニ於テハ遂ニ無条件調印ヲ主張ス可キ形勢トナリ此間ニ処シ「カラハン」氏ノ如キ百方緩和ニ努メ何トカシテ兩國ノ為メニ穩便ニ解決ノ道ヲ求メント其苦心尽力尋常ニアラス真ニ其誠意ニ感激セリ

十四日拙電発信後「カラハン」氏ヨリ言ヲ寄セテ去十一日小生ノ提出セル声明案ハ一項二項共閣議ニ於テ通過ノ見込ナシ蘇政府トシテハ絶対無条件ニテ調印ヲ迫ルヘシ故ニ本日(一月十四日)再ヒ小生ト「スターリン」氏ト会合ノ約

望ヲ有セラルル儀ト察スルトコロ斯ク多数ノ漁区ノ無競売貸下ヲ原則トシテ認メシメントスルコトハ六日發拙電ノ通り到底困難ニシテ右ニ付キテハ条約案ノ建前並蘇側ノ体面及其国民ニ対スル威信ノ關係モ考慮セサルヲ得サルモノト認ム中小漁業者ノ地位ノ保障ニ付テハ条約案中既ニ国営ノ競売不参加及「コーペラチーブ」ノ活動制限並最低価格ノ決定方法等ニ関スル規定モアル次第ニ付キ先方ヲシテ日本臣民ノ既得ノ地位ヲ尊重シ将来其活動ノ範圍ヲ縮少セシメサル様充分ノ考慮ヲ私フ旨ヲ約セシムル程度ニテ満足スルヲ妥當ト信ス尤モカカル程度ノ声明ヲ取付ケ得ル場合之ニ依リ調印後中小漁業者ノ現有漁区ノ大部分ニ付キ無競売貸下ノ要望力達成セラルル次第ニ非サルモ競売ニ際シ故意ニ先方カ個人又ハ「コーペラチーブ」ヲ使喚シテ我当業者ノ利益ヲ害スルカ如キ措置ヲ為スコトヲ防止シ得可シ小生カ「カラハン」ハ勿論「スターリン」「ミコヤン」等ノ会谈ニ於テ得タル印象ニ依レハ当国要路者ニ於テハ漁業条約問題ニ対シ帝國政府カ隨ヲ得テ蜀ヲ望ムノ態度ヲ繰返サルルコトヲ甚不満足ニ感シ居ルニ付キ此上帝國政府ノ信義ヲ疑ハシムルニ至ル

アルヲ聞キタル故其際「スターリン」氏ニ調停ノ勞ヲ依頼セラレ蘇政府融和ノ策ヲ講セラルルヲ勸ムト「カラハン」氏一己人トシテ小生ニ忠告ヲ与ヘタリ仍テ其日「スターリン」氏ト面談ノ際漁業条約問題カ日蘇兩國政府間ニ於テ停頓シ日本政府ハ条件ノ覺書ヲ附スルヲ必要トシ蘇政府ハ無条件調印ヲ主張スル氣勢ナリ小生ハ兩國政府ノ間ニ幹旋シ何トカシテ解決ノ道ヲ得ントシ其為メ既ニ二回出發ヲ延期セル程ナリ蘇政府緩和ニ付キ「何分」ノ援助ヲ乞ヒタルニ同氏ハ小生ノ先ニ提出セル声明案ヲ熟読セラレタルモノノ如ク之ニ記載セラレタルカ如キ要求カ本問題交渉ノ始ニ提出セラレタランニハ既ニ数月前ニ解決セラレタル可カリシナリ然ルニ日本側ヨリハ頻繁ニ種々ノ要求提出セラレ蘇國側ハ殆ト悉ク之ヲ容レ既ニ問題ハ終結セリト思ハレタルトコロニ又更ニ此新要求ヲ提出セラレタリ日本ノ此ノ如キ行動ハ蘇國側ニ日本ハ蘇國ヲ愚弄セント欲スルモノナラントノ印象ヲ与ヘタリ日本ノ行動ハ實ニ其意ヲ得ス問題解決ノ困難ハ此点ニ存ス併シナカラ「スターリン」氏ハ小生ノ誠意ヲ諒トシ極力解決ニ努ム可キコトヲ約セラレ尙小生ノ声明案ハ大ニ修正ヲ要ス可キ旨ヲ附言セラレタリ

一月十五日夜半貴電ニ接シ第二点トシテ条約案第二条第二項ヲ引用スルコト到底不可能ナル事情明瞭ニ御諒解ノ上小生ノ進言ヲ認容セラレ大局上ノ見地ヨリ此際ハ第一点ニ付キテ成ル可ク的確ナル内諾ヲ取付ト共ニ第二点トシテハ条約ノ実施適用ニ当リテハ日本人ノ既得ノ地位ヲ尊重シ將來活動ノ範圍ヲ縮少セシメサル様充分ノ考量ヲ払フト云フカ如キ趣旨ノ声明ヲ取付ニテ満足セラレ之ヲ以テ大使ニ正式調印ヲ訓令セラレタル趣ニ付キ小生ハ翌十六日「カラハン」氏ニ蘇國政府ニ於テ小生カ去十一日提出セル如キ意味ノ声明書ヲ条約調印前交付スルコトヲ承諾セラルルニ於テハ田中大使ヲシテ再ヒ東京ニ照会スルコトナク直チニ条約ニ調印セシムル權限ヲ与ヘ來レリ至急回答ヲ望ム旨申入レタルニ蘇政府内ノ空氣ハ外務人民委員部ノ或一部ヲ除キテハ容易ニ融和ス可クモアラスト見ヘ「カラハン」氏ハ蘇政府ノ對案トシテ

蘇連邦政府ハ漁業協約ノ適用地域ニ於テ日本臣民ノ從事スル漁業ノ大ナル經濟的意義ヲ認メ該協約ニ從ヒ日本臣民ノ正当ニシテ合法的ナル利益カ損害ヲ蒙ラサル様考慮スル用意ヲ有ス

シ田中大使ヨリ小生ト協議ノ上最後ノ修正ヲ加ヘタル左ノ新声明案ヲ提出シ之カ同意ヲ求メラレタリ

- 一、蘇連邦政府ハ漁業條約附屬最終議定書第一節第一節Bノ(3)ノ規定ヲ考慮シ(國營漁区選定ニ関スル規定)且關係日本臣民ノ正当ナル希望ヲ念慮ニ入レ千九百二十七年度ニ於テ日本國臣民ノ經營セル漁区ハ之ヲ數個ノ場合ヲ除キ國營企業ノ經營ノ為メ保留ヲ申出テサル可シ
 - 二、蘇連邦政府ハ漁業條約適用地域ニ於テ日本國臣民カ從來行ヒ來レル漁業活動ノ重要ナル經濟的意義ヲ認メ該條約ノ規定ノ適用ニ当リテハ日本國臣民ノ漁業活動ノ範圍カ縮少セラレサル様充分ノ考慮ヲ払フノ用意アリ
- 之ニ對シ蘇政府ヨリ出発ト決定シタル当日一月十七日ニ至ルモ何等回答ニ接セス三度出発ヲ延期シテ問題ノ結末ヲ待ツコトトセリ

一月十八日「カラハン」氏ト外務人民委員部ニ會シ十六日述ヘタル所ヲ更ニ力説シ尙小生カ莫斯科着以來要路諸名士ト會談ノ結果蘇政府ノ主張モ能ク諒解シタレハ之ヲ參酌シ日本政府ニ強ク勸説シタレハコソ其態度非常ニ緩和シタルモノニシテ貴下ニ於テモ小生ノ苦衷ヲ察シ公職ヲ度外ニ措

ト云フ意味ノ声明案ヲ提示セリ且之ニ附言シテ此ハ日本側ノ提案トハ大ニ懸隔アル如ク考ヘラル可キモ之スラ子爵カ「スターリン」氏ト會談ノ結果「スターリン」氏ノ政府ニ對スル懇望ヲ無視スルニ忍ヒス閣議ニ於テモ相當困難ヲ經テ決議シタルモノナルコトヲ諒トセラレタシトノ事ナリ小生ハ直チニ親ク「カラハン」氏ヲ訪ヒ日本政府ノ最近迄主張シ來リシ日本人現有漁区無競売貸トノ原則ヲ撤回セシムル迄ノ小生ノ苦心努力ヲ語り國營留保漁区モ日本人現有漁区ノ内ヨリ一区モ渡サスト云フニモアラス此ハ條約ノ規定ニ依リ兩國政府ノ協定ニ由リ取極ム可キモノナルカ故小生ノ提出シタル声明書ニ由リ條約以外ニ別ニ恐ル可キ新要求ヲ為サントスルモノナリトノ疑念ヲ一掃セラレ速ニ声明書ニ同意セラレ協約調印ヲ決行セラレンコトヲ勸告セリ次テ田中大使モ「カラハン」氏ヲ訪ハレ小生ノ言ヲ繰返ヘシ聲明案中國營漁区留保漁区ニ關スル事ハ之ヲ刪除セラルルニ於テハ到底日本政府ノ同意ヲ得難シ此事ニ關シテハ既ニ協約ニモ規定シアレハ蘇政府ニ於テ別ニ異議ヲ唱ヘラル可キ理由ナカル可シト說カレ尙調印進捗ノ為メ成ル可ク當方ノ要求ノ限度ヲ具體的ニ表示シ先方ノ義務ヲ緩和スルコトト

キ友人的態度ヲ以テ蘇政府側ノ融和ニ尽力セラレツツアルヲ知ルハ小生ノ感激措ク能ハサル所ナリ然レトモ田中大使カ最後ニ提出シタル声明案ハ小生モ篤ト協議ニ与カリ百方考慮ノ末提案シタルモノニシテ日本政府トシテハ不満足ト考フルヤモ知レサレト小生ノ裁量ニ依リ決定シタルモノナレハ是非トモ蘇政府ノ承諾ヲ希望ス尤モ字句修正ノ必要ヲ認メラレハ田中大使ト協定セラレタシ要スルニ此渋滞ハ感情、形式ノ問題ニシテ声明案ノ實質ハ既ニ協約自身ニ包含セラレアル事ナレハ蘇政府カ此聲明案ヲ承認セラルルモ實質上何等損益スル所ナシト考ヘラルルニ付キ速ニ快諾ヲ与ヘラレタシト申出テタルニ「カラハン」氏ハ之ニ答ヘテ否、問題ハ単ニ形式ニ止マラス此聲明案ハ協約ノ上ニ實質的ノ或物ヲ附加ヘルコトヲ意味スルモノナルカ故ニ解決困難ナルナリ例ヘハ「日本人ノ漁業活動ノ範圍ヲ縮少セシメス云々」ト云フ如キハ即チ競売入札ノ意義ヲ無効ナラシメントスルモノナリ今日ニ於テハ蘇國々民個人ノ實力微弱ナレハ事實上大差ナカル可キモ理論上明カニ協約ノ上ニ或物ヲ附加ヘントスルモノナリトノ議論閣議ニテ盛ナリ困難ハ實ニ此点ニ在リ兩國政府ノ間ニ挾マリ双方ヲ満足セシムル

左ノ謝電ヲ発セリ
電信

「チチュエーリン」氏へ（露訳）

今日貴国ノ国境ヲ東ニ通過セントスルニ際シ今回貴国訪問ノ節貴国政府並沿道人民代表諸君カ我等ニ致サレタル真ニ懇切ニシテ友情アル待遇ニ対シ余ハ衷心ヨリ感謝ス是全ク蘇連邦人民ノ日本国民ニ対スル友情ノ発露ナル可キヲ知り余ノ最欣快トスル所ナリ

此機会ニ於テ重ネテ貴下ニ敬意ヲ表ス

又「カラハン」氏へ（電文露訳）

余カ此度貴国訪問ニ当リ貴下カ公式的ヨリ寧ロ私的ニ余ニ示サレタル好意ト友情ハ余ノ最尊重スル所ノモノニシテ是即チ吾等両国民親善ノ増進ヲ確保スルモノナルコトヲ感得セリ

此愉快ニシテ幸福ナル記憶ヲ齎ラシツツ今日貴国ノ国境ヲ通過セントス此機会ニ於テ更ニ貴下ニ敬愛ノ意ヲ表ス

斯クシテ我等ノ列車ハ西比利亞地方異常ノ寒氣（「スウェルドロウスク」ニテ列氏零下四十二度「ノボシピリス

フナラハ日本政府ハ直チニ協約ニ調印スルコトヲ承諾セラ
ルル意志アリヤ予メ承知致シ置キタシ

昭和二年十二月二十八日接

外務大臣

後藤へ

貴電拝誦御配慮ヲ深謝ス曩ニ御依頼ノ趣旨ハ閣下御諒解ノ通りニシテ閣下ノ彼我当局者間ニ於ケル御斡旋ニ依リ本問題ノ解決ヲ促進シタキ希望ナリ田中大使ニ対シテハ閣下ト密接ナル連絡ヲ採リ閣下ノ蘇側当局トノ御開談及御斡旋ヲ容易ニスル様訓令シ置キタル次第ナルモ尚閣下ノ御斡旋ニ依リ解決ノ見込立チタル場合ハ時機ヲ逸セス同大使ヨリ正式交渉ノ歩ヲ進ムル様為念別ニ訓示ス可シ又御来示後段ノ点ニ付テハ篤ト当方ニ於テ考究ノ結果若シ蘇側カ

(一)日本人ノ現有漁区全部ハ大体ニ於テ国营漁区トシテ蘇国側ヨリ留保セサル旨並

(二)条約成立ノ上日本人カ其現有スル漁区ニ付条約第二条第二項ニ依リ無競売貸下ノ申出ヲ為ス場合ハ蘇国官憲ハ好意ヲ以テ之ニ応ス可キ用意アル旨

ク」ニテ同四十八度ヲ示セリ）ノ為メ遅延スルコト二十五時間一月二十九日夜満州里ニ到着セリ

(2) 「東京ト往復電報」

昭和二年十二月二十五日発

後藤

外務大臣へ

漁業協約ニ関シ田中大使ヨリ聞ク所ニ由レハ小生出発前貴大臣ヨリ手交セラレタル十一月三十日外務農林両大臣決裁済書類中四段ノ交渉方針ニ基キ小生ニ於テ直接其交渉ニ当リ田中大使ハ其為メ小生ニ充分ノ便宜ヲ供与セラル可キ旨御訓令アリタル趣ナレトモ小生ノ諒解ハ之ト異リ田中大使ハ固ヨリ職權上当然直接交渉ノ任ニ当タラレ小生ハ個人トシテ日蘇両国当事者間ニ斡旋ノ勞ヲ採リ解決促進ニ尽力ス可キコトト考ヘ居リタリ又小生ハ之ヲ以テ最正当ニシテ最便宜ナル方法ナリト信ス

此諒解ノ基礎ニ於テ小生蘇国当局者ト会談スル際若シ何等カノ形式方法ニ由リ日本人ノ現有スル漁区全部ハ大体ニ於テ国营漁区トシテ蘇国ニ於テ留保セサルコトノ内諾ヲ得能

ノ二点ヲタニ比際何等カノ形式ニ依リ内諾ヲ与フルニ於テハ我政府トシテハ爾余ノ問題ハ総テ調印後トシ直チニ条約ノ調印ヲ承認スルコトニ決定シタルニ付右ノ条件ニテ当方ニ即時調印ノ意向アル旨先方へ御示シノ上御会談ヲ進メラルル様致シタシ尚本件解決ハ一ニ閣下ノ御斡旋ニ俟ツ現状ナルニ付此上トモ宜敷御尽力アラントヲ切望ス

昭和二年十二月三十日発

後藤

外務大臣へ

二十八日貴電拝誦二十九日「カラハン」ト会谈シタル所貴電中第一点日本人ノ現有漁区全部ハ大体ニ於テ国营漁区トシテ蘇国側ニ於テ留保セサル旨ノ内諾ハ取り得可キモ第二点日本人ノ現有漁区全部ヲ悉ク無競売貸下ノ事ハ到底完全ナル承諾ヲ得ル望ナシ然レトモ先方ハ充分好意ヲ以テ日本人ノ既得ノ地位ヲ尊重シ實際上ノ利益ヲ害セサル様考慮ス可キコトヲ明言セリ此程度以上ノ譲歩ヲ得ル見込ナシ又此以上強テ交渉ヲ試ムルコトハ今後却テ当業者ハ不利ヲ来タス恐アリ故ニ此際協約調印ヲ速ニ決行セラレタシ

昭和三年一月四日接

外務大臣

後藤へ

貴電拝誦段々ノ御尽力ニ依リ日本人ノ現有漁区カ国営ノ侵略ヲ免ル可キ保障ニ関スル往電第一点ノ内諾取付ノ見込立チタルコトハ深謝ニ堪ヘサル所ニシテ往電申進ノ第二点ニ関スル御来示モ大体当方ノ趣旨ト合致シ居ルヤウ察セララルニ付仮令完全ナル諒解ヲ得ル見込ナントスルモ調印後先方カ希望漁区ニ付条約第二條第二項ノ適用上充分ノ好意ヲ以テ日本人ノ既得ノ地位ヲ尊重シ實際上ノ利益ヲ害セサルヤウ考慮ス可キコトヲ明言スルナラハ其旨何等カノ形式方法ニテ取極メ置クコトヲ得ハ我方トシテハ満足ナル可キヲ以テ御来示ノ通り条約調印ヲ決行シタキ所存ナルニ付御煩勞ノ儀ナカラ第一点ノ内諾ト併セ保障取付方此上トモ御配慮ヲ切望ス

昭和三年一月六日発

後藤

外務大臣へ

昭和三年一月十二日発

後藤

外務大臣へ

九日貴電拝誦田中大使ヨリ説明聴取ノ上昨十一日以来更ニ「カラハン」ト交渉ヲ試ミツツアリ大体御趣旨ヲ含ミ小生ノ考ニテ田中大使ト協議ノ上出發前解決シタシ仍テ予メ至急田中大使へ協約調印ノ訓令アリタシ小生十四日夜出發ス

昭和三年一月十三日接

外務大臣

後藤へ

十二日付貴電拝誦御配慮ニ依リ年来ノ懸案解決ノ氣運ニ向ヒタルハ御同慶ニ堪ヘス右貴電御来示ノ趣旨ニ依リ田中大使ニ対シ必要ノ訓令ヲ發シ置キタルニ付此上トモ御配慮相願フ

昭和三年一月十四日発

後藤

外務大臣へ

貴電拝誦田中大使ヨリ同大使宛御電訓ノ趣旨モ聴取セルカ前電申進ノ通り日本人現有漁区全部ハ大体ニ於テ国営ニ於テ留保セサル旨ノ内諾ハ取り得可キモ此際缶詰工場關係漁区以外ノ漁区ニ付テ迄モ無競売ニテ貸下ヲ約セシムルコトヨ何等カノ形式ニテ取極メルコトハ第二條ノ原則ヲ但書ニ由リ覆ヘサントスルモノニシテ条約案ノ精神ニモ反シ到底困難ナリ右ハ小生カ充分先方ト懇談ノ上看取セル所ナリ依テ本件ハ右前段ノミノ内諾ヲ取付クルコトトシ他ハ先方カ小生ニ明言セル程度ニテ満足セラレ速ニ調印方御決定ノ上至急必要ノ訓令ヲ大使へ發セララル様致シタシ尙小生十日出發ノ予定ニ付至急何分ノ回電アリタシ

昭和三年一月九日着

外務大臣

後藤へ

貴電拝誦御配慮ニ依リ重要ナル交渉事項ニ一大進捗ヲ見タルハ感謝ニ堪ヘサルコロ当方ノ趣旨ハ不取敢別ニ田中大使へ電報シ同大使ヲシテ御説明申上クルコトニ取計ヒ置キタルニ付委細御聴取ノ上此上トモ何分ノ御配慮相成度シ

(編註)
本文記載

昭和三年一月十五日接

外務大臣

後藤へ

十四日發貴電拝誦重々ノ御配慮誠ニ深謝ニ堪ヘス今回ノ貴電ニ依リ第二点トシテ条約案第二條第二項ヲ引用スルコト到底不可能ナル事情明瞭ニ諒解セラルルニ付御来示ノ御意見ノ通り大局上ノ見地ヨリ此際ハ第一点ニ付テノ成ル可ク的確ナル内諾ノ取付ト共ニ第二点トシテハ條約ノ実施適用ニ当リテハ日本人ノ既得ノ地位ヲ尊重シ將來活動ノ範圍ヲ縮少セシメサル様充分ノ考量ヲ払フト云フ如キ趣旨ノ声明ノ取付ニテ満足シ十二日ノ貴電ノ通り田中大使ヲシテ正式調印ヲ了セシムルコトト致シタシ

就テハ御煩勞ノ至リナカラ閣下ノ御斡旋ヲ機トシ懸案解決ヲ図リタキ政府ノ意向御推察ノ上前記二点ノ諒解ヲ何等カノ形式ニテ取付方御斡旋ヲ得度此上トモ閣下ノ御配慮ヲ切望ス

昭和三年一月十八日発

後藤

外務大臣へ

十七日出発ノ処十五日貴電ノ御趣旨ニ依リ文書ノ取付ケ交渉ニ手間取り二十一日出発ノコトトセリ

昭和三年一月二十日発

後藤

外務大臣へ

本文記載

昭和三年一月二十一日接

外務大臣

後藤へ

本文記載

昭和三年一月二十一日発

後藤

外務大臣へ

者ニトリ不利不便ナル点ヲ矯正シ(一)曖昧不備ナル点ヲ補正シ(二)旧協約締結以後発生シタル諸般ノ变化就中技術ノ進歩ニ副ハサル点ヲ改正スルヲ以テ改訂ノ骨子トシ爾来二年余ノ長日月ニ亘リ商議ヲ重ネタル結果双方ノ意見ノ一致ヲ見昭和三年一月二十三日両国全権委員間ノ調印ヲ了シ五月二十三日ヲ以テ此准書ノ交換ヲ終リ同月二十八日ヨリ其ノ実施ヲ見ルニ至レリ

二結果

本条約ハ(一)漁業ノ意義、(二)漁業区域、(三)漁業経営権ノ獲得方法、(四)漁区ノ競売ト最低価格、(五)漁区貸付期間、(六)漁業使用人ノ国籍、(七)漁場越年者、(八)漁業関係者ノ渡航、(九)船舶ノ廻航、(十)漁獲標準高、(十一)漁撈方法、(十二)漁獲物製造方法、(十三)缶詰工場、(十四)漁業用物件ノ輸入、(十五)漁獲物ノ輸出、(十六)税金公課、(十七)労働条件等ヲ規定セルカ之ヲ旧協約ニ比スレハ缶詰工場付属漁区ノ無競売長期貸下、

本文記載

編注 (1)「漁業協約調印斡旋顛末」参照。

(参考二)

109 日付不明

日ソ漁業条約改訂の経過および結果について

日「ソ」漁業条約改定ノ経過及結果ノ概要

一 経過

明治四十年締結ノ日露漁業協約ハ其ノ規定ニ從ヒ大正八年改正ノ要アリタルモ当時露国ノ国情安定セス且承認セラレタル政府ノ樹立ナク為ニ改訂商議ヲ行フコト能ハサルヲ以テ大正九年以降同十三年ニ至ル迄ハ露国極東ニ於テ実勢力ヲ有スル政權ト暫定的ノ取極ヲ為シ之ニ依リ出漁ヲ継続セリ然ルニ大正十四年一月北京ニ於テ日本國「ソヴェエト」連邦間ニ基本条約締結セラレ右ニ基キ前記漁業協約ヲ改訂スルコトナリ同年十二月莫斯科ニ於テ我方大使ト先方代表トノ間ニ改訂商議ヲ開始シ農林省ヨリモ係職員ヲ莫斯科ニ派遣シ旧協約ノ規定中(一)我当業

国营企業ノ漁区取得ニ対スル制限、税金公課ノ賦課軽減、捕鯨根拠地ノ許与、漁具其ノ他器具機械ノ使用ニ関スル制限ノ緩和、運搬及交通ニ関スル便宜、雑魚及廃棄物ノ利用等我方ニ有利ナル点勘カラス

右ノ内缶詰工場付属漁区ノ貸付ニ付テハ昭和三年七月ヨリ当業者代表ハ莫斯科ニ於テ先方当局ト商議ヲ開始シ同年十一月三日ヲ以テ付属漁区四十二ヶ所其ノ貸付期間十ヶ年ノ貸付契約ヲ了シ目下国营企業取得漁区、漁区貸付条件、漁区不発表、漁獲標準高問題等ニ関シ日「ソ」両国間ニ於テ交渉中ニシテ漁期開始迄ニハ夫々解決シ得ル見込ナリ

編注 欄外に「第五十六議会用トシテ水産局ニ於テ立案」

(嶋田)とある。第五十六回帝國議會は昭和三年十二月二十六日開会、昭和四年三月二十五日閉会。

なお、日ソ漁業条約調印書および付属文書を「付録」として巻末に掲載した。